

(令和元年度単年度経営計画)

(公財)京都市森林文化協会	令和元年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

基本事項

所管局課	産業観光局農林振興室林業振興課	本市出えん金	50,000 千円
基本財産/資本金	50,000 千円	本市出えん率	100.0 %

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	自律化	目標年度	令和2年度
-----	-----	------	-------

「今後の方向性」に向けた基本的方針

業務面	公益財団法人として掲げる森づくり事業や森林体験事業、地域資源を有効活用したイベント事業を強化し、公益目的事業をより一層推進する。さらに、これらの公益目的事業と一体的に、宿泊休養施設をはじめ、各収益施設を管理、運営することで、収益事業を活発化させる。
財務面	宿泊休養施設等の改修後の自己資金積立に必要な資金確保等を目指し、基本方針の業務面で示した公益目的事業及び収益目的事業の両事業における事業展開によって、増益を図る。
組織面	公益目的事業を専門的に担える人材を育成するとともに、各事業の運営状況に合わせて適切な職員配置を行う。
その他	

当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>施設の修繕等については、速やかに計画を策定・実行し、利用者の利便性及び施設の魅力向上を図り、利用者の増加と収益の拡大により、経営の安定化に繋げていただきたい。</p> <p>また、昨年度は、台風等の影響により、入園者数・利用者数が目標に届かなかったことから、集客力の高いイベントの開催等、利用者にも魅力的な事業を展開し、入園者数・利用者数の増加と収益の拡大に繋げるとともに、公益事業のさらなる充実を図っていただきたい。</p>
-----	--

当年度の「今後の方向性」の進捗状況及び各取組に対する総括(※)

団体	前年度に続き赤字決算となった。特に収益事業の不振の影響が大きい。新型コロナウイルスにより、どのような影響を受けるのか今後も不透明であるが、状況を見極めながら抜本的な見直しを行う。
所管局	<p>年間を通して天候不順が影響して、イベントの中止が相次いだことに加え、年度末には新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けて、業績及び財務状況が悪化しており、ただちに抜本的な経営改善の取組が必要である。</p> <p>収益事業については、事業内容の見直しにより集客を改善することに合わせ、経常経費の更なる見直しを行い、収支の改善を要する。公益事業については、本市以外からの受託を行うなど、これまでのノウハウを生かした新たな収入源の獲得を要する。</p>

(令和元年度単年度経営計画)

(公財)京都市森林文化協会		令和元年度経営計画 兼 経営努力結果	
本市のえん率引下げに向けた実施計画			
中期経営計画における取組内容	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	自律化手法の原案策定	宿泊休養施設・案内休憩所修繕に伴う基本財産の取崩し	基本財産への自己出資による自律化
当年度目標	自律化に向け、経費の削減やサービスの質の向上、集客力の高いイベントの開催等により、経営改善を図るとともに、京都府、京都市の担当課と速やかに協議を行い、京都市の出捐率の引下げに係る具体的な方策をとりまとめる。		
当年度結果(※)	京都府、京都市の担当課と協議を行い、京都市のえん率の引下げに係る方策をとりまとめた。		

(1)業務に関する取組

目標1「山村都市交流の森利用者の拡大」	
中期経営計画における取組	京都市北部山間地域の豊かな自然や山村文化を積極的に活用し、都市住民へ魅力を発信するとともに、開設から20年近くが経過した主要施設のリノベーションに取り組み、利用者のニーズに合致した施設の改修・再整備を行うことで、山村都市交流の森の利用者を拡大させる。
当年度目標	昨年度は、宿泊施設、案内休憩棟の再整備等を行う予定であったが、台風被害等により着手できなかったため、利用者の利便性と施設の魅力向上を図るため、今年度、改めて修繕改修計画を策定する。 また、京都市の北部山間地域の振興を図るために設立された「花背地域振興協議会」と連携した事業展開により、地域への更なる誘客を図り、拠点施設である山村都市交流の森の入園者の増加を目指す。 さらに、北部山間地域住民の利用拡大を図るため、「地域利用の日」の企画をより充実させる。
当年度結果(※)	当年度は、経年劣化による修繕と施設の魅力向上を図るため、宿泊施設等の修繕改修計画を策定し、来年度以降着手する予定である。 新たな利用者拡大の取り組みとして、企業と連携したイベントを2回実施した。また保全と観光客受け入れを両立するため、樹高日本一の「花背の三本杉」周辺の整備を行った。地域住民と共に3月に森林浴のイベントを計画していたが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。今後も積極的な情報発信と「花背の三本杉」など地域資源を生かしたイベントを開催し、利用者拡大に努めていく。

指標1	山村都市交流の森入園者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	35,000		38,000		40,000		41,000	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績
	36,000	35,962	38,000	35,006	40,000	32,050	—	

指標2	宿泊施設利用者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	13,000		9,500		10,000		11,000	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績
	9,000	9,068	9,500	9,491	10,000	8,644	—	

(令和元年度単年度経営計画)

(公財)京都市森林文化協会		令和元年度経営計画 兼 経営努力結果
目標2「地域資源を生かしたイベント事業の強化」		
中期経営計画 における取組	「京都丹波高原国定公園」の指定、樹高日本一の「花背の三本杉」や高層湿原「八丁平」など、地域資源を生かしたトレッキング・自然観察会を中心としたイベント事業を積極的に展開する。	
当年度目標	花背の三本杉や八丁平をはじめとする地域資源を活用したトレッキングや自然観察会、野外体験塾などのイベントについては、リピーターも多く、参加者からも好評であることから、更なる内容の充実とPR強化を図り、更なる観光客の誘致につなげる。 また、団体等の要望に応じた受託型イベント（トレッキング・自然観察会）は、企画料収入を得られ、収益性も高いことから、PRの強化を図り、受託数の増加を目指す。	
当年度結果 (※)	天候不順や新型コロナウイルスの影響でのイベント中止もあったが、応募者数はほぼ前年度並みであった。また、当年度は受託型イベントを3件受託し、PRを強化し更なる参加者の増加を目指す。	

指標	イベント参加者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	—		2,000		2,200		2,500	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績
	—	—	2,000	4,429	2,200	4,228	—	

(2)財務に関する取組

主要財務数値 (単位：千円)							備考欄
	平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績	
経常収益	100,000	96,157	100,000	92,339			
経常費用	95,000	104,369	95,000	97,416			
当期経常増減額	5,000	△ 8,212	5,000	△ 5,077			
当期正味財産増減額	3,000	△ 10,009	3,000	△ 6,875			
資産合計	-	113,723	-	104,836			
負債合計	-	29,358	-	27,345			
正味財産	-	84,366	-	77,491			
うち累積損益額	-	34,365	-	27,491			

(令和元年度単年度経営計画)

(公財)京都市森林文化協会	令和元年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

目標「経営の自律化」	
中期経営計画 における取組	公益財団法人としての基準を満たしながら事業を充実させ、増益を図り、安定した経営を継続し、自律化に必要な資金を準備する。また、自律化と並行して実施する施設改修について、具体的な改修計画を策定し、順次改修を進める。
当年度目標	公益目的事業及び収益目的事業の両事業の充実を図り、自律化に向けた自己資金の確保に努める一方、京都府、京都市の担当課と協議を行い、京都市の出捐率引き下げに係る具体的な方策をとりまとめる。
当年度結果 (※)	京都府、京都市の担当課と協議を行い、京都市の出捐率の引下げに係る方策を取りまとめた。 令和2年度に開催する理事会・評議員会において機関決定し、着実に実施していく。

指標	一般正味財産期末残高 (単位：千円)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	7,000		34,000		37,000		40,000	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績
	30,000	24,994	34,000	16,712	34,000	11,565	—	

(3)組織に関する取組

目標「職員研修の充実」	
中期経営計画 における取組	京都市等が実施する研修会への参加と全職員への伝達研修と併せて、森林文化に係るインストラクターとしての資質向上や宿泊者及びイベント参加者への対応において必要な知識・資格の習得に努める。 また、職員は技術の習得と視野の拡大を図るため、年間を通じて固定した業務に就くのではなく、季節や業務の繁閑、技能の程度に応じて、臨機応変に配置換えを行うものとする。
当年度目標	研修については、京都市等が実施する研修会への参加を奨励するとともに、参加者から全職員に対する伝達研修を行い、知識の共有を図る。また、協会独自の職員研修を実施し、森林文化に係るインストラクターとしての資質向上や宿泊者及びイベント参加者への対応について、必要な知識の習得を図る。さらに、こうした研修を経て、職員が資格取得する際の支援も行う。 また、職員の技能向上と幅広い業務知識取得を図るため、現有の職員で季節や業務の繁閑に対応できる体制を整備していく。 I 京都市等の研修会への参加 II 協会独自の職員研修の実施 III 資格取得に対する支援
当年度結果 (※)	京都市等の研修会に参加 1名 資格取得に対する支援 グリーンワーカー研修受講 1名 伐木講習補講受講 4名

指標	研修への参加 (単位：回)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	3		3		3		3	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績
	3	3	3	5	3	6	—	